肺がん検診を
これから受ける方、受けた方へ

肺がんについて

- わが国ではがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 肺がん検診で早期に発見して治療することにより、肺がんで亡くなることを防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。
- 肺がん検診は 40 歳になったら毎年、肺の X 線検査（必要に応じて痰の検査の併用）を繰り返し受けてください。ただし、血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなどの症状がある場合は、次の検診を待たず、速やかに医療機関を受診してください。
- 肺がん検診には利益（肺がんで亡くなることを防ぐ）と不利益（偽陰性、偽陽性など）があります。
  偽陰性とは実際にはがんがあるのに見つけられないこと、偽陽性とは実際にはがんでないのに「要精密検査」と判定されることです。
  利益が不利益を上回るように受けることが大事です。
- 肺がん検診で「要精密検査」となった場合は肺がんの疑いがありますので、必ず精密検査を受けてください。
- 精密検査は CT、もしくは気管支鏡検査などです。

※精密検査の結果は市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。（医療機関の検診精度向上のため）

肺がん検診に関するお問い合わせ先

八王子市健康医療部成人保健課
〒192-8501 八王子市元本郷町三丁目24番1号
電　　話：042-620-7428
ファックス：042-621-0279

※この資材は、国立がん研究センターがん対策研究所が厚生労働行政推進調査事業費補助金「検診効果の最大化に資する職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究」班、国立がん研究センター研究開発費「働く世代におけるがん検診の適切な情報提供に関する研究」班の協力を得て作成した資材から転載、一部加工修正しています。

肺がん検診を受ける前に知っておくこと

肺がんはわが国のがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。国が推奨している肺がん検診（肺のX線検査、痰の検査）は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。早期発見、治療で大切な命を守るために、40歳以上の方は毎年、繰り返し検診を受診し、「肺がんの疑いあり（要精密検査）」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「不利益」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんがん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精密検査」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったために、不必要な治療を受けなければならない場合もあります。がん検診の利益（がんで亡くなることを防ぐ）と不利益のバランスの観点から、このリーフレットにある受診年齢、受診間隔、検査項目を守りましょう。

詳細はこちらをご覧ください。
https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html

喫煙と肺

喫煙者は非喫煙者と比べて男性で約 4 倍、女性では約 3 倍肺がんになりやすく、喫煙を始めた年齢が若く、喫煙量が多いほどそのリスクが高くなります。受動喫煙（周囲に流れるたばこの煙を吸うこと）も肺がんのリスクを 2~3 割程度高めます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

出典：「国立がん研究センターがん情報サービス」
https://ganjoho.jp/public/cancer/lung/index.html#a_factor

肺がん検診の流れ

受付（保険証（資格確認書）の提示、質問票の記入）

↓

問診（症状※があれば報告）
※血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなど

↓

肺の X 線検査
（必要に応じて痰の検査を併用）

↓

- 肺がんの疑いあり 要精密検査 → 必ず受けてください
- 肺がんの疑いなし 精密検査不要

↓

精密検査
（胸部 CT 検査または気管支鏡検査など）

↓

- 肺がん → 治療
- 肺がんなし → 1年後の検診

肺の X 線検査と痰の検査

肺の X 線検査
胸の X 線撮影を行います。全体を写すため、大きく息を吸い込んでしばらく止めて撮影します。
- 放射線被ばくによる健康被害はほとんどないとされています。

痰の検査（肺の X 線検査との組み合わせ）
対象者は 50 歳以上、喫煙指数が 600 以上の方です。3 日間起床時に痰をとり、専用の容器に入れて提出します。痰に含まれる細胞や成分を測定してがん細胞の有無を調べます。

肺のX線検査

1日の喫煙本数 × 喫煙年数 ＝喫煙指数

喫煙指数の算出

「要精密検査」の結果なら必ず精密検査を受診

肺がんであっても症状が出ないことはよくあります。「症状がないから大丈夫」などと自己判断せず、必ず精密検査を受けてください。また、痰の検査で「要精密検査」となった場合、痰の検査だけをもう一度受けるのではなく、必ず精密検査を受けてください。

精密検査は胸部CT検査もしくは気管支鏡検査など

胸部 CT 検査
X 線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し詳しく調べます。

気管支鏡検査
気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。

CT スキャン

40 歳になってから、1 年に 1 回、胸部 X 線検査（必要に応じて痰の検査を併用）を繰り返し受けることで、肺がんで亡くなることを防ぐことができます。

肺がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず毎年、繰り返し検診を受けてください。血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなどの症状がある場合には次の検診を待たず、速やかに医療機関を受診してください。